

## 博士論文の審査結果の要旨

専攻	保健医療学	分野	看護学
学籍番号		院生氏名	山本 江里子
通学キャンパス			
論文題目	月経痛がある若年女性のセルフケア尺度の開発とその関連要因		
審査結果(枠で囲む)	合格		不合格
<p>&lt;審査結果の要旨&gt;</p> <p>1. 研究の概要</p> <p>本研究の目的は、月経困難がある若年女性がセルフケアの状況を評価できる尺度の開発とセルフケアに影響を及ぼす関連要因を検討することである。</p> <p>女子大学生を対象に月経随伴症状のセルフケアに影響する要因を質的に分析した。ペンダーの改訂ヘルスプロモーションモデルを基に構成要素を検討し、専門家会議とプレテストを経て尺度原案を作成した。そして予備調査、本調査、関連要因調査を行った。その結果、月経困難がある若年女性がセルフケア尺度は、「自己効力の知覚」4項目、「月経痛改善の意志」4項目、「生活の工夫で出来るセルフケア」5項目、「薬剤を使用したセルフケア」3項目、「月経痛改善までの負担の予期」3項目、「セルフケア行動にかかわる感情」4項目の6下位尺度23項目から構成された。内容妥当性、構成概念妥当性、内的整合性を検討した結果、妥当性、信頼性、安定性が確認された。関連要因として、月経痛の程度、食事・睡眠との関連が示唆された。</p> <p>本研究は、国際医療福祉大学倫理委員会の承認を受けて実施しており倫理的問題はない。</p> <p>新規性は、月経痛がある若年女性のセルフケアを評価できる尺度はなく、この尺度の開発によりセルフケアの状況を評価・検討することが可能となり、月経痛がある女性のセルフケアの質の向上に寄与する研究であり、高く評価できる。</p> <p>2. 審査経過</p> <p>審査会は3回開催し、初回審査を8月8日に遠隔システムでキャンパス間をつなぎ開催した。口頭試問では、研究デザイン、分析手法、研究の結果等について質問を行い、ほぼ適切に応答した。論文の構成、表や数値の記載等について追加・修正を求めた。第2回審査会を8月16日に開催し、提出された修正論文を検討し、さらに修正を求めた。8月28日の第3回審査会で、再度修正・加筆されて提出された論文について審査員のみで審査を行い、適切に修正されたことを確認した。</p> <p>3. 合否結果</p> <p>以上の結果から、審査会の審査員全員は本論文が著者に博士(看護学)の学位を授与するに十分な価値があるものと認めた。</p>			
論文審査担当者	<p>主 査 世良 喜子</p> <p>副 査 堀本 ゆかり</p> <p>副 査 渡邊 志</p>		